

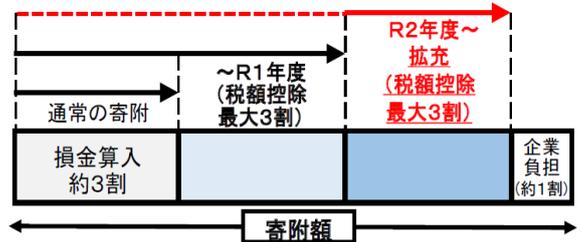
令和6年度企業版ふるさと納税の実績について

1 制度概要

地方公共団体が行う地方創生の取組に対する企業の寄附について法人関係税を税額控除

制度のポイント

- 企業が寄附しやすいよう、
 - ・損金算入による軽減効果に税額控除による軽減効果を上乗せ
 - ・寄附額の下限は10万円と低めに設定
- 寄附企業への経済的な見返りは禁止
- 寄附額は事業費の範囲内とすることが必要
 - ※ 以下の地方公共団体は対象外。
 - ① 不交付団体である東京都
 - ② 不交付団体で三大都市圏の既成市街地等に所在する市区町村
 - ※ 本社が所在する地方公共団体への寄附は対象外。



例) 1,000万円寄附すると、最大約900万円の法人関係税が軽減。

- ① 法人住民税 寄附額の4割を税額控除。(法人住民税法人税割額の20%が上限)
- ② 法人税 法人住民税で4割に達しない場合、その残額を税額控除。ただし、寄附額の1割を限度。(法人税額の5%が上限)
- ③ 法人事業税 寄附額の2割を税額控除。(法人事業税額の20%が上限)

※企業版ふるさと納税制度概要（内閣府作成）から抜粋

2 寄附を受けた事業の概要について

事業名	災害用資機材(充電式スタンドライト)購入事業
所管課	防災危機管理課
事業実績費	1,028,660円
企業名・寄附金額	株式会社エーアンドエーマテリアル ・ 1,000,000円
事業内容	<p>大規模災害時は停電のリスクがあり、特に夜間における照明の確保は重要であるため、これに対処するための資機材として、充電式のスタンドライト及びかご台車(保管及び運搬用)を寄附金により整備した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・充電式スタンドライト 7基 ・かご台車 2台
成果	<p>照明について、従来の発電機の電力供給によるものではなく、充電式のものを整備することで、災害時や停電時における屋内外での迅速な照明確保が可能になるとともに、騒音や振動、排気による設置場所の考慮も不要となった。</p>



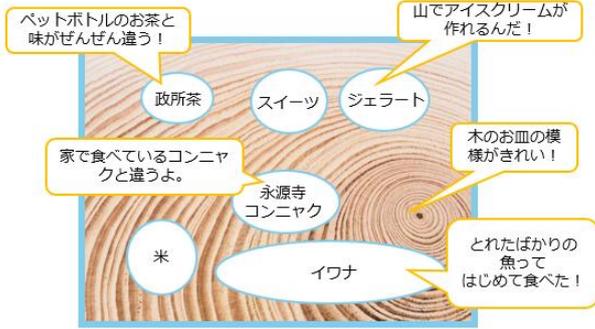
事業名	防災施設整備事業
所管課	防災危機管理課
事業実績費	6,736,000 円
企業名・寄附金額	株式会社ウィーズ ・ 6,736,000 円
事業内容	<p>災害時の孤立対策や山岳救助時において、携帯電話等が利用できない場所においても活用できる通信設備として、企業版ふるさと納税制度により衛星携帯電話と使用するに当たって必要となるプリペイドSIMを受領した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衛星携帯電話 4台 ・プリペイドSIM 4枚
成果	<p>本庁及び政所出張所に衛星携帯電話を配備することで、災害時等において一般的な通信手段が途絶した場合の備えとすることができた。また、平時においては、山岳救助訓練など携帯電話や無線では通信できない場所での活動に活用できるようになった。</p>



事業名	鈴鹿の森の自然分野調査及び自然体験プログラムの構築
所管課	森の文化推進課
事業実績費	3,284,694 円
企業名・寄附金額	非公表
事業内容	<p>① 鈴鹿の森の自然分野調査 鈴鹿の森内の生物多様性を評価することを目的として主に哺乳類、魚類、昆虫、植物に大別して各専門調査員によるフィールド調査を実施した。哺乳類調査では地上センサーカメラを環境が異なる合計5か所の森林内に設置し、各環境での種数や出現頻度を比較した。魚類および昆虫は各対象地区において捕獲調査を実施し、調査地点ごとに確認された種類を記録した。植物においては調査ルート上にある樹木や草本植物の位置と種類を記録した。</p> <p>② 自然体験プログラムの構築 自然や歴史文化の魅力を子供たちに伝え、自然の大切さを学ぶ機会を創出するため、市内の若手事業者の意見を聞き取るとともに、過去からの鈴鹿の森の自然や歴史文化の調査成果を活用し、自然体験プログラムを構築した。</p>



地上センサーカメラの設置例

<p>成 果</p>	<p>① 鈴鹿の森の自然分野調査</p> <p>哺乳類調査では合計 13 種が確認され、このうち、ニホンリス、カモシカ、イタチ属の3種の生息が今年度の調査で初めて確認できた。広葉樹が混じる林分の方が哺乳類の種数は多くなる傾向となったが、針葉樹林でも最低7種以上の哺乳類が確認された。さらに魚類では9種、昆虫は 207 種、樹木は 282 種、草本植物は 388 種確認された。各種調査の成果により鈴鹿の森に多様な動植物が生息していることが判明し、今後、鈴鹿の森の魅力を発信していく上で重要な資料となった。</p> <div style="text-align: right;">  <p>撮影されたカモシカ</p> </div> <p>② 自然体験プログラムの構築</p> <p>食文化をテーマとして、奥永源寺の地域資源について学んだ上で、地域の多様な食材を使用し、伝統文化である木地師の皿にワンプレートランチを盛りつけるという一連のプログラムを作成した。自然と歴史文化の探求型学習に向けた食文化体験プログラムを構築することができ、今後、鈴鹿の森の文化の魅力を発信するに当たってのひとつのツールとすることができた。</p> <div style="text-align: right;">  </div>
------------	---

3 今後の方針について

企業版ふるさと納税制度の適用期限が令和9年度末までに延長されたため、本制度の活用により本市の地方創生の取組を更に推進する。